

## コロナ生き抜く生産

### 青果育種研究会 収量予測技術は実用化

青果育種研究会(岩澤均会長)は10月22日、つくば国際会議場でつくば農研機構研修・勉強会を開いた。会場に直接参加した約40人のほかZoom

での参加者も多数おり、パンデミックを引き起こしているコロナ時代の生産、流通の在り方、最先端技術を駆使した農業者の収量予測などの講演を聴いた。同研究会は生産者、農協、卸売・流通、行政関係者がその年の農産物の動向を検討する見本市などを開いている。

で、見本市の開催は中止を余儀なくされてきた。そんな中で開催された今回の研修・勉強会は現状を客観的に見る機会となった。

前農林水産省生産振興審議官の鈴木良典さんは「ウィズコロナ時代の園芸作物生産と流通」、農研機構野菜花き研究部門野菜生産システム研究領域長の東出忠桐さんは「トマトの収量予測と生産効率の向上」、同機構農業技術革新工学研究センター高度作業支援システム研究領域上級研究員の菅原幸治さんは「露地栽培の収量予測について」と題して講演をした。参加者は講演の後、同機構の植物工場を視察、講演の内容を実際の栽培環境の中で実体験していた。



植物工場を視察する参加者

誠意と確実の表徴



フタバ印

**フタバ印のタネ**  
**感動と満足の種子**

埼玉県久喜市野久喜1-1

**野原種苗株式会社**

電話 (0480) 21-0002(代)

FAX (0480) 23-5005

タネは1番・デンワは2番

しかし、今年は年初来のコロナウイルスの蔓延

講演の詳細については今後掲載する。